

公益財団法人 サントリー芸術財団 音楽事業部

107-6022 東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル22F Tel: 03-3582-1355 Fax: 03-3582-1350

No.12022 (2014.3.31)

第45回（2013年度）サントリー音楽賞は 鈴木雅明とバッハ・コレギウム・ジャパンに決定

公益財団法人サントリー芸術財団（代表理事・堤剛、鳥井信吾）は、わが国の洋楽の発展にもっとも顕著な業績をあげた個人または団体に贈る「サントリー音楽賞」の第45回（2013年度）受賞者を鈴木雅明（すずき まさあき）とバッハ・コレギウム・ジャパンに決定しました。

●選考経過

1. 2014年1月13日（月・祝）東京・丸の内の東京會館において、選考委員7名により第一次選考を行い、候補者を選定した。
2. 引き続き3月18日（火）東京・丸の内の東京會館において最終選考会を開催、選考委員7名により慎重な審議の結果、第45回（2013年度）サントリー音楽賞受賞者に鈴木雅明とバッハ・コレギウム・ジャパンが選定され、3月26日（水）理事会において正式に決定された。

●賞金は700万円

●贈賞理由は別紙のとおり

●選考委員は下記の7氏

岡田暁生・柿沼敏江・片山杜秀・白石美雪・長木誠司
沼野雄司・三宅幸夫

（敬称略・50音順）

<贈賞理由>

鈴木雅明は、自ら創設したバッハ・コレギウム・ジャパン（以下BCJ）の音楽監督として、長年にわたりバロックの声楽作品を中心とする演奏活動を続けてきた。レパートリーは、BCJの名前を冠するJ.S.バッハの作品のほか、ヘンデルやクーナウ等々、バロックのなかでも広がりとお行きを見せている。活動は国内外の古楽の音楽祭で、鈴木雅明とBCJはすでに定番の顔ぶれとなっている。

バロック演奏の分野で新たな水準を獲得し、また作品の内容をテキスト・音楽ともども深く掘り下げたその演奏は、ことにバッハ作品において本領を発揮し、世界に並み居る演奏家たちによる優れた演奏のなかでも特筆すべきものとなっており、国際的に高い評価を得ている。日本人演奏家の団体が、古典派以前の作品演奏に関してこうした評価を得たことは過去に例がなく、その意味でこれはわが国の洋楽演奏史上かつてない偉業であり、同時に音楽史を越えた文化的な意味でも歴史的な事件とも言える。鈴木雅明が2012年にバッハゆかりのライブツイヒから荣誉あるバッハ・メダルを授与されたことも、鈴木雅明とBCJの活動の優れた評価を裏付けている。

2013年2月には、1995年以来時系列を追って継続してきたバッハの「教会カンタータ」全曲演奏を完結させるとともに、その全集録音も55巻のCDとして完成させた。それゆえ、鈴木雅明とBCJの活動は過去の実績を踏まえた大きな山場を迎えたと言えるであろう。いまこそ鈴木雅明とBCJの活動を顕彰するに相応しいときを迎えたと思われる。

<略 歴>

鈴木雅明 (すずき・まさあき) 指揮、オルガン、チェンバロ

神戸出身。東京藝術大学作曲科卒業、同大学院オルガン科修了。アムステルダムのスウェーリンク音楽院でチェンバロとオルガンを学ぶ。

1990年、バロック時代の音楽作品をオリジナル楽器で演奏することを目的に、バッハ・コレギウム・ジャパン (以下BCJ) を創設。以来、バッハ演奏の第一人者として名声を博す。BCJを率いて欧米の主要なホール、音楽祭に度々登場しており、雄弁かつ透明なサウンド、本質に直結した演奏アプローチで、極めて高い評価を積み重ねている。近年はモダン・オーケストラとの共演も多く多彩なレパートリーを披露。2013年3月にはBCJ合唱団、イエール・スコラ・カントールムを率いてニューヨーク・フィル定期演奏会4公演を指揮、大成功を取めた。

東京藝術大学古楽科を設立し、2010年まで20年にわたって教鞭を執った。現在、イエール大学アーティスト・イン・レジデンス、神戸松蔭女子学院大学客員教授。

バッハ・コレギウム・ジャパン 合唱・管弦楽

1990年創設。J.S.バッハの教会音楽を中心としたバロック音楽の理想的な上演を目指して国内外で活動が続ける。

スウェーデンのBIS社より80点に及ぶCDをリリースし、多くの賞を受賞。2011年には「バッハ：モテット全集」がドイツ批評家大賞、ディアパゾン金賞、BBCミュージック・マガジン・アワードを受賞。1995年に開始した「教会カンタータ」全曲シリーズが、2013年2月に全曲演奏・録音(全55巻)を完遂、大きな反響を呼んでいる。

以 上

(ご参考)

サントリー音楽賞について

公益財団法人サントリー芸術財団では、1969年の設立以来、わが国における洋楽の振興を目的として、毎年、その前年度においてわが国の洋楽文化の発展にもっとも顕著な功績のあった個人または団体を顕彰し、「サントリー音楽賞」(旧名・鳥井音楽賞)を贈呈しています。賞金は700万円です。

これまでに「サントリー音楽賞」を受賞した方々は下記の通りです。

第1回	1969年度	小林 道夫 (ピアノ・チェンバロ・指揮)
第2回	1970年度	堤 剛 (チェロ)
第3回	1971年度	三谷 礼二 (オペラ演出)
第4回	1972年度	小川 昂 (理論・評論)
第5回	1973年度	ICUオルガン委員会 (国際基督教大学)
第6回	1974年度	秋山 和慶 (指揮)
第7回	1975年度	栗林 義信 (声楽) 山根 銀二 (評論)
第8回	1976年度	芥川 也寸志と新交響楽団
第9回	1977年度	常森 寿子 (声楽)
第10回	1978年度	松村 禎三 (作曲)
第11回	1979年度	吉原 すみれ (打楽器)
第12回	1980年度	妹尾 河童 (舞台美術)
	特別賞	江戸 英雄 (第1回日本国際音楽コンクール会長)
第13回	1981年度	柴田 南雄 (作曲)
第14回	1982年度	外山 雄三 (指揮)
	特別賞	原 清 (ザ・シンフォニーホール建設グループ代表)
第15回	1983年度	鈴木 敬介 (オペラ演出)
第16回	1984年度	豊田喜代美 (声楽)
第17回	1985年度	日本テレマン協会 (室内管弦楽団・合唱団)
第18回	1986年度	内田 光子 (ピアノ) 若杉 弘 (指揮)
第19回	1987年度	岩城 宏之 (指揮)
第20回	1988年度	林 康子 (声楽)

第21回	1989年度	有田 正広 (古楽演奏)
第22回	1990年度	武満 徹 (作曲)
第23回	1991年度	尾高 忠明 (指揮)
第24回	1992年度	練木 繁夫 (ピアノ)
第25回	1993年度	五嶋みどり (ヴァイオリン)
	特別賞	ウォルフガング・サヴァリッシュ (指揮)
第26回	1994年度	和波 孝禧 (ヴァイオリン)
第27回	1995年度	今井 信子 (ヴィオラ)
第28回	1996年度	園田 高弘 (ピアノ)
		湯浅 譲二 (作曲)
第29回	1997年度	東京交響楽団
第30回	1998年度	林 光 (作曲)
第31回	1999年度	三善 晃 (作曲)
第32回	2000年度	飯守泰次郎 (指揮)
第33回	2001年度	一柳 慧 (作曲)
第34回	2002年度	小澤 征爾 (指揮)
		木村かをり (ピアノ)
第35回	2003年度	野平 一郎 (作曲、ピアノ)
第36回	2004年度	西村 朗 (作曲)
第37回	2005年度	鈴木 秀美 (チェロ・指揮)
第38回	2006年度	東京混声合唱団
第39回	2007年度	細川 俊夫 (作曲)
第40回	2008年度	小山 由美 (声楽)
第41回	2009年度	大野 和士 (指揮)
第42回	2010年度	渡邊 順生 (チェンバロ)
第43回	2011年度	該当者なし
第44回	2012年度	藤村 実穂子 (声楽)
特別贈賞	1979年6月	巖本真理弦楽四重奏団
”	1997年8月	黛 敏郎 (作曲)

以 上